

“The Fisherman and His Soul” における悪徳の肯定

本間里美

はじめに

オスカー・ワイルド (Oscar Wilde, 1854-1900) の童話「漁師とその魂」(“The Fisherman and His Soul,” 1891) は、悪徳や不道徳が賛美される物語である。「漁師とその魂」では物語を通して、“the power of the love” (“Fisherman” 143) が強調されているため、漁師の人魚への愛の強さや尊さが語られているように見える。しかしながら、漁師は人魚を愛するため、そして切り離した肉体と魂を再統一するために、肉体も魂も様々な罪を犯し、ヴィクトリア朝の価値観に反する不道徳な行為を行う。そして「虚言の衰退」(“The Decay of Lying,” 1891) で“All art is immoral.” (1136) と述べられているワイルドの思想を反映し、漁師の罪や不道徳な行為は、物語の最後に、神の祝福を表すと考えられる美しい花が咲くことによってすべて肯定されている。漁師の人魚への愛の賛美という仮面の下で、この童話がいかにヴィクトリア朝の道徳観に反抗し、悪徳を肯定していると言えるのか、「悪魔と魔女が揺るがす規範」、「犠牲者が人魚でなければならない理由」、「芸術家としての魂」という観点から「漁師とその魂」を考察する。

悪魔と魔女が揺るがす規範

漁師が魂と肉体を切り離すために力を貸した魔女とその主である悪魔は、神に敵対するだけでなく、ヴィクトリア朝の道徳とは相容れない、当時の規範を揺るがす存在として描かれている。悪魔は、その服装や思想がヴィクトリア朝の中産階級の男性の規範から外れる存在であったために嫌悪されたダンディの特徴を持っている。魔女は当時理想の女性とされた「家庭の天使」とは異なり、性的魅力にあふれる容姿や語りで漁師を誘惑し騙す女である。漁師が力を借りたのが当時忌み嫌われる特徴を持った悪魔と魔女であることは、漁師により多くの悪の要素をまとわせ、それらすべてを物語の最後で神に祝福させて肯定するためである。

魔女の持つ性的魅力のある女の特徴は、魔女の髪、足等に表れている。戸矢理衣奈は当時のファッションは非常に保守的であり、髪はボンネットで覆われ、足はスカートの下にすっかり隠されなければならないと述べている (19)。このような当時理想とされた女性の身だしなみとは異なり、魔女は漁師の訪問を知ってあえて髪を下ろし、解かれた長く赤い髪を強調している。足についても“Round and round they whirled, and the young Witch jumped so high that he could see the scarlet heels of her shoes.” (“Fisherman” 123) のように、漁師は魔女の足を見ることができたと描写されている。

犠牲者は人魚でなければならない理由

漁師の魂と肉体が分離し、再統一するための犠牲者が人魚であることには必然性がある。それは司祭に “lost” (“Fisherman” 118, 119) と言われる人魚の官能的な美しさに魅了され、魔女の助力を得て、漁師が魂を捨てるためである。そして足のない人魚を愛した漁師が人間の少女の足を見たいという誘惑に負け、地上に出て多くの罪を犯すためである。つまり死後に肯定される悪徳の数々が強調されるために、より多くの悪行を漁師に重ねさせることができる人魚という存在が必要とされたのである。

古来より人魚は人間の男を誘惑し、時には殺害する邪悪な存在であると見なされてきた。ダイクストラは19世紀末に絵画や文学作品で扱われたセイレン、人魚らに言及しながら、「これらの海の乙女たちは、きわめて意図的に漁師の網に捕らえられるという習性」(422) を持っていて、「セイレンの肉体的な誘惑は、男性の超越的な魂に死をもたらした」(422) と述べている。エドワード・ルーシー・スミス (Edward Lucie-Smith) はヨーロッパでは伝統的に人魚は、性欲の象徴であり、人間の男を誘惑するものであると述べている (252)。「漁師とその魂」の人魚も、ヴィクトリア朝の理想の女性像に反しており、人魚の髪は性的な魅力を表すものである。強調されて描かれる解かれた金色の人魚の髪は、エリザベス・G・ギター (Elisabeth G. Gitter) が“The combing and displaying of hair, as suggested by the legends of alluring mermaids who sit on rocks singing and combing her beautiful hair, . . . constitute a sexual exhibition.” (938) と述べるように、性的な魅力を表す。それだけではなく、ギターは以下のように、人魚の金髪の両義性についても主張している。

. . . the golden-haired woman developed in Victorian literature into a complex but powerful figure whose magnificent hair had multiple meanings and uses. When she was saintly—a wife, nurse, mother, or victimized princess—the gold on her head was her aureole, her crown, the outward sign of inner blessedness and innocence. But when she was

dangerous and corrupt, her gleaming hair was a weapon, web, or trap, a glittering symbolic fusion of the sexual lust and lust for power that she embodied. (943)

つまり人魚は性的魅力があるために悪徳を体現するだけではなく、性的魅力を持つ女と「家庭の天使」の特徴を併せ持つことで、その境界を曖昧にしてしまうために悪徳を体現する存在でもありと考えられるのである。

芸術家としての魂

漁師が悪徳に身を染めても最後に神の祝福を受けたのは、魂が嘘をつき、罪を犯す「芸術家」として描かれているためである。魂が「芸術家」と言える理由について嘘と罪の観点から論じる。ワイルドは「虚言の衰退」で、詩人と同様に「嘘つき」が芸術家であると主張している (1073)。そして “... Lying, the telling of beautiful untrue things, is the proper aim of Art.” (“The Decay of Lying” 1091-92) と主張して嘘の重要性を強調している。魂は 3 年に渡り年に一度海岸を訪れ、魂と悪魔や魔女との結びつきをうかがわせる “the Mirror of Wisdom” (“Fisherman” 131)、 “the Ring of Riches” (“Fisherman” 137)、「少女の踊り」という主に 3 つの嘘の話で肉体の誘惑を試みる芸術家として描かれている。

「罪」を芸術と見なすワイルドの思想については、トマス・グリフィス・ウェインライト (Thomas Griffiths Wainwright, ? - 1852?1847?) を扱った「ペン、鉛筆と毒薬」 (“Pen, Pencil and Poison,” 1891) で語られている。このなかで、ウェインライトの罪について “His[Wainwright’s] crimes seem to have had an important effect upon his art. They gave a strong personality to his style, a quality that his early work certainly lacked.” (1106) と述べられ、彼の罪が芸術に与えた影響の重要性が語られている。魂とともに地上に出た漁師も、魂に唆されて次々に殺人を含む罪を犯す。これらの罪を犯すよう魂が肉体を唆したのは、肉体が人魚を愛するため魂に「心」を渡さず、魂に罪悪感がないためである。したがって肉体が人魚を愛したことで、魂は嘘をつき、罪悪感なく罪を犯す「芸術家」となったのである。

おわりに

「漁師とその魂」は、漁師の人魚への愛の強さゆえ、最後に漁師と人魚を埋めた土地の上に美しい花が咲き、その愛が称えられているように見える。しかし、「悪魔と魔女が揺るがす規範」、「犠牲者が人魚でなければならない理由」、「芸術家としての魂」という観点から考察するとき、漁師の犯した様々な悪徳や罪が浮かび上がる。漁師が自身の欲望を叶えるために手を借りたのは悪魔と魔女であり、恋したのはヴィクトリア朝の理想的女性像からかけ離れた人魚であった。さらに物語の最後で漁師の罪や悪徳を神に祝福させるため、魂を「芸術家」として描き、人魚を犠牲にして肉体と魂の再統一を成し遂げた。従って「漁師とその魂」は悪徳を肯定する童話であると言える。

Work Cited

Gitter, Elisabeth G. “The Power of Women’s hair in the Victorian Imagination.” *PMLA*, vol. 99, no. 5, Oct. 1984, pp. 936-54.

Lucie-Smith, Edward. *Sexuality in Western Art*. Rev., Thames and Hudson, 1991.

Wilde, Oscar. “The Decay of Lying.” *Complete Works of Oscar Wilde*. Introduced by Merlin Holland, 5th ed, Collins, 2003, pp. 1071-92.

_____. “The Fisherman and His Soul.” *The Complete Short Fiction*, edited by Ian Small, 2th ed., Penguin Classics, 2003, pp. 115-48.

_____. “Pen, Pencil and Poison.” *Complete Works of Oscar Wilde*. Introduced by Merlin Holland, 5th ed, Collins, 2003, pp. 1093-107.

ダイクストラ、ブラム。『倒錯の偶像——世紀末幻想としての女性悪』訳富川義之・藤巻明・松村伸一・北沢格・鶴飼信光。パピルス。1994年。

戸矢理衣奈。『下着の誕生——ヴィクトリア朝の社会史』講談社。2000年。